

[論文]

保育者養成校における音楽・身体表現の授業内容における実践研究 1

—身近なものを素材とした表現活動—

幼児教育学科 塩崎 みづほ
地域保育学科 長谷川 恭子

Practical research on the content of music and physical expression classes
—Expression activities using familiar materials—

Mizuho Shiozaki
Kyoko Hasegawa

キーワード：音楽、身体表現、表現活動、保育者養成、ICT

Key Words : Music, Physical expression, Expression activity ,Childcare educational institution、ICT

要約：本論文は、身近なものを使った表現活動の授業実践を通し、題材選びの視点への気づきに繋がり、ICTを活用できる活動であるかについて学生の感想を通して考察し、授業内容改善への一資料とすることを目的としている。身体表現での動きのスケッチ、音楽表現で動きやテーマにあった音づくり、そして音と動きを合わせた作品発表会、最後に発表作品の動画制作までを実践した。学生の授業後の感想から、本授業内容は、題材を自ら探し、選んで活動することから題材選びの視点に繋がること、主体的な学びへと導くこと、仲間と共に実践することによる協働的な活動であり、学生にとって効果的な内容であることがわかった。また、ICTの活用にも繋がる可能性を持っている活動であることも見出すことができた。

Abstract : This paper concerns a way to improve the lesson content through the classroom practice of expression activities using familiar things. It is intended to develop an awareness of a perspective of subject selection and consideration of whether something is an activity that can utilize information and communication technology (ICT). The purpose is to provide a reference for future projects. We practiced sketching movements involved in physical expressions and creating sounds that match movements and themes with musical expressions. Works were then presented that combined these elements and videos were made of the presented works. From the impressions of the students after the lesson, the content of the lesson was collaborative in that students searched for subjects by themselves and performed ones they selected which led to a perspective for selecting a subject and encouraged independent learning, followed by an actual performance with fellow students. It turned out to be an effective activity for the students.

1. 問題の所在と研究の目的

私たちは、外からの刺激を受け、それを心で感じた時、その思いを外へ出す（表す）。この一連の過程を表現と考え、子どもたちの心を揺さぶるような外からの刺激を与えることが、表現活動を導くには大切なことであろう。すなわち、保育者は子どもたちと生き生きとした表現活動を行う題材について探すこと、見極めることが求められるといえる。題材選びは重要な要素でありながら、保育者養成の学生たちは、題材選びが難しいと感じているものが多く、模擬保育で指導案作成を行う際によく聞かれる声である。

さて幼稚園教育要領では、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して保育活動を行うことが基本とされている。幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気づくように働きかけていくことが重要であると述べられている。さらに、領域「表現」の内容の取り扱いでは、「豊かな感性は、自然などの身近な環境と十分にかかわる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに出会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々に表現することなどを通して養われるようにすること」¹⁾とある。子どもたちの生活の中には、表現活動に繋がる題材は、身近なところにたくさんあり、そのことに気づくことが大切ではないだろうか。また、同じ題材を「様々に表現すること」で表現する楽しさを味わい、表現を様々に工夫する力を養うことができる。題材への気づきと同時に、それらを発展させていく視点を持つことが望まれる。

現在本学で行っている「音楽・身体表現」という授業では、それぞれの特性を活かしつつ、音楽と身体表現が関わる内容の実践を行っている。今年度は、「身近なものを使って表現活動へ」という共通テーマのもと、表現活動の題材選びの視点への気づきに繋がる可能性を見出すための実践を行った。題材への気づきと同時に、ICTの活用の可能性についても探るため、本活動の中に取り入れることとした。「保育者に求められる資質・能力」の一つに「新たな課題に対応できる力」があり、その中にはアクティブラーニングの視点からの授業改善、ICTの活用が挙げられている。実際、保育の現場においても、ICTの活用については必要であると考えられており、活用できる人材の必要性は強く感じているのが現状である³⁾。ICTを活用できる人材の育成は、養成校の担う役割の一つであるといえる。しかしながら、ICTの活用については、保育者の事務処理として取り入れている園は増加しているが、保育活動に取り入れることに対しては慎重な姿勢である。ICTを取り入れた実践が養成校でも行われており、保育者としていかに活用していくか、ICTのスキルの向上や可能性についての実践が多く見受けられる⁴⁾⁵⁾⁶⁾。まずは保育者が保育活動を充実させるための方法やスキルを身につけることで、子どもたちへの活用方法を検討することが大切であろう。

そこで本研究の目的は、身近なものを使った表現活動の授業実践を通し、題材選びの視点への気づきに繋がり、ICTを活用できる活動であるかについて学生の感想を通して考察し、授業内容改善への一資料とすることである。

2. 研究方法

2-1 対象者

幼児教育学科第二部 2 年生 「音楽・身体表現」履修学生 43 名

2-2 実施期間

令和 3 年 6 月 25 日～7 月 16 日

2-3 対象とした授業の概要

2-3-1 対象授業の内容

「音楽・身体表現」の授業は、幼児教育学科において必修の授業である。幼児教育学科第 2 部では、2 年生の前期において開講されている。音楽と身体表現のオムニバス授業であり、それぞれの基礎的な技能、保育者としての豊かな感性の育成を目標として行っている。音楽と身体表現それぞれの教員間で連携をし、授業内容に共通性を持たせている。今回の取り組みもその一つである。今回は、「身近なものを題材とした動きのスケッチ・音探し」をテーマとしてそれぞれ 1 回ずつ演習の授業を行い、その後、それぞれの授業で創作したものを素材として作品創作、発表会、動画編集を実施した。本活動は、授業の 12 回目から実施し、全 4 回分の授業を行った。

表 1 身近なものを題材とした作品創作の授業の流れ

回	テーマ	内容
12	身体表現「動きのスケッチ」	身近なものを題材とした動きのスケッチ実践（表 2）
13	音楽表現「音づくり」	身近なものを題材とした音作りの実践
14	作品練習・発表	前時に創作した音に合わせて動きを練習する。1 グループずつ発表する。作品は動画として撮影をする。
15	動画作成、まとめ	発表作品を動画にまとめる。タイトルやキャプチャなどを入れて、グループごとに作品を動画にまとめる。 振り返りとまとめ

2-3-2 身体表現「身近なものを題材とした動きのスケッチ」

動きのスケッチというテーマで 90 分授業を行った。この学習の目標は、以下の 3 点である。

- ・対象物を見て自身の体の使い方を工夫する。
- ・対象物をどう捉え、どう表現するかについて考え、まとまりのあるひと流れの動きを創り出す
- ・身近なものが動きにつながるという題材選びの視点に気づく

授業の流れは、表 2 の通りである。

表 2 身体表現授業実践内容

前時宿題		
動きのスケッチについての資料を配布し、対象物を 3 つ選び、自身で決め、スマートフォンで動画や静止画として撮影してくるという宿題を課した。対象物については、動物、植物、物体、自然から選ぶよう資料にて説明を行った。		
はじめ	ウォームアップ	手遊びから身体表現へ
なか	一人で動きのスケッチ	撮影してきたものを見ながら一人で動きを工夫しひと流れを創作する。
	動きの共有	6 人グループになり、仲間の動きを共有する。
	動きの創作	全員の動きの中から、気に入ったものを 3 つ選びグループ作品へ仕上げる。(動きのまとめ、隊形、空間の使い方などを工夫する)
	発表	1 グループずつ発表する。
おわり	まとめ	本時の活動の振り返り (Google フォームにて各自振り返りを行う。)

2-3-3 音楽表現 「音づくり」

事前に同テーマで 90 分の授業を行っているが、その際は素材の音源を教員が用意し、学生が聴き取って音を再現するという手順で実践をした。音源は、公園、鉄道の高架下、川、草むらなどで教員が動画撮影したものである。学生は、これらの音を楽器や廃材、体などを使って再現する活動を行い、音づくりを経験した。

これを踏まえ、本時は身体表現で作成した動きのスケッチの作品に合わせる音づくりを行なった。前回と同様、使用するものは楽器や廃材、体の他、何を使用しても良いことにした。また、動きのスケッチで扱ったものが実際にどのような音がするのか分からないようなものは、想像で音を作るようにした。作成した音素材はスマートフォンで動画撮影した。動きのスケッチの発表のために、これらの音素材はアプリを用いて繋いだ(アプリは学生の利便性を考え、教員側で指定はしなかった)、各グループの個性を活かす表現にするため、加工をしても良いこととした。

2-4 授業での振り返りの分析

毎時間、Google フォームにて学生の振り返りを行った。13 回授業における音楽表現活動「音づくり」、14 回授業における音楽表現と身体表現を合わせた作品創作・発表を行った感想、15 回授業時における授業の「身体表現動きのスケッチの感想」、「iPad を使った感想」を調査対象とし、授業内容の効果と課題を見出す。

2-4-1 分析方法

学生の感想をデータとして打ち込み、KH Coder(Ver2.00)を使用し、共起ネットワークを作成する。

最小出現語数を 4 に設定、Jaccard 係数を 0.2 とした。出現語数の多い語ほど大きい円で描画されているため、データ全体像を視覚的に把握することができる。その関連性から感想の分類を行い、授業内容の効果と課題について考察する。

3. 結果

3-1 音楽表現における「音づくり」を行なった感想

音楽表現では、音づくりに取り組んだ感想を Google フォームで回収した。共起ネットワークからは、「音で表現することへの取り組み」「活動から保育への発展について感じたこと」「グループでの関わり」などの観点が浮き彫りとなった。「音で表現することへの取り組み」については、どのように表現をしたら良いか悩んだ様子もあったが、「それぞれの音を見つけ出すのが楽しかった」「『こっちの方がそれっぽいかも！』と試したりする時間は楽しかった」「理想通りの音が録音できるとみんな拍手喝采で喜びました」「廃材を使った音の表現がこんなにも楽しいと改めて感じた」など、表現を楽しんだ回答も多かった。

「活動から保育への発展について感じたこと」は、保育者になってから保育に活かすことについて述べられたもので、「私たち自身がこんなにも楽しめたのだから、子どもはもっと何倍も楽しむのだろうなと考えました」「子ども達に楽しい不思議、綺麗とじてもらい活動を通して成長できるようサポートできたら良い」「私達が体験した自由に楽器を使い楽しく音を出し何かを想像して演奏する楽しさを子どもにも同じ様に味わってほしい」などの回答があった。「グループでの関わり」は、「グループで考えて音を表現すればよいかを考えるのが楽しかった」「グループの中に色々な考え方があっていいものが沢山できた」「グループの発想力が面白くて非常に良い刺激になりました」など、協同した様子とお互いの表現を受け入れている様子の回答があった。

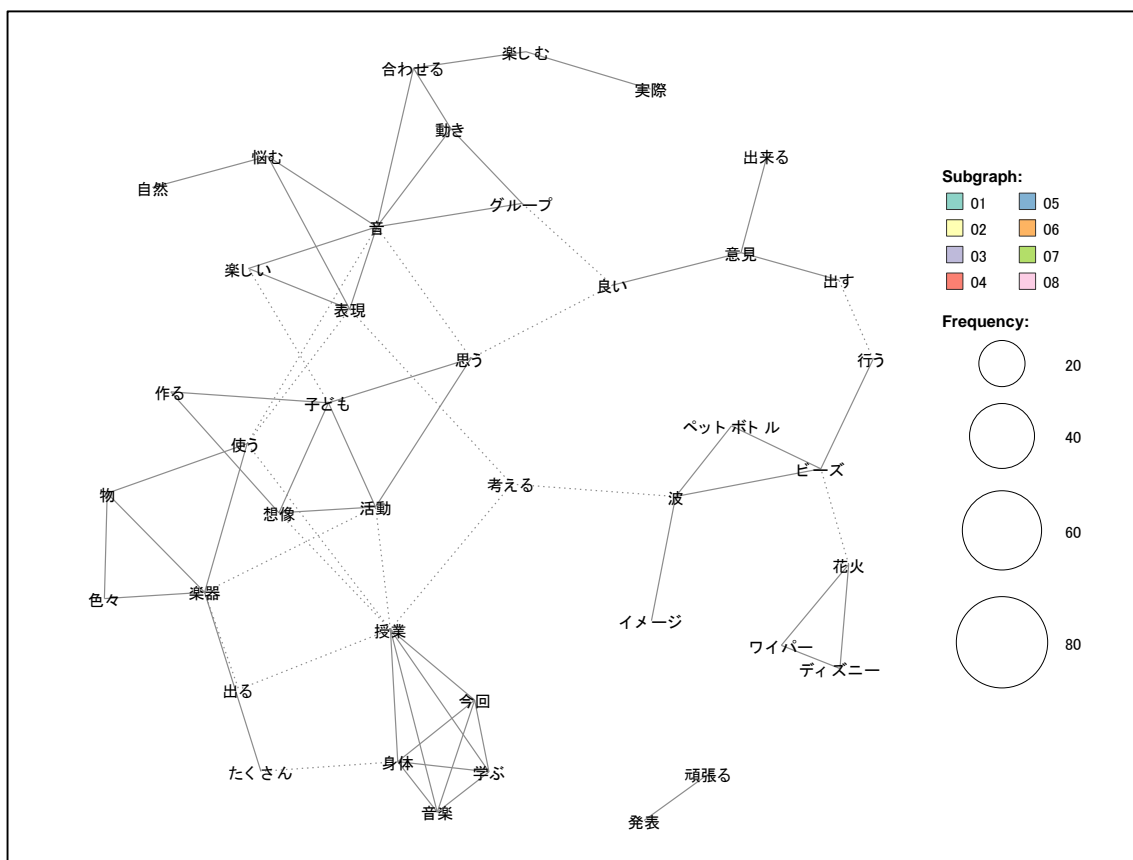


図1 音づくり感想

3-2 音楽表現、身体表現を合わせた作品創作、発表についての感想

共起ネットワークでは、「創作」「音」「作る」「動き」「考える」「自分」「楽しい」といった言葉の頻出回数の多さとながりの強さを見ることができる。「今までは既存の音に踊りをはめることが普通であると思っていましたが、一から自分たちで音を探すのはすごいなと思ったし、やりがいを感じた」、「今まで自ら作った音に合わせて動くという経験がなかったのでも新鮮」、「自分たちが作ったダンスにあとから音をつけるというのは難しいなと感じました。もう少し音をつけやすい動きにすればよかったなとか色々思うことは出てきましたが、でも水の音とかをペットボトルで再現したりと工夫を考えるのがとても楽しかったです。実際にダンスをつける時もあーここいい感じだな！とかみんなで言いながら活動できてとても楽しさを感じられました」といった、動きと音が融合した時の楽しさ、創作活動の楽しさについての感想が多く見られた。

次に、「同じものでここまで展開すると思っていなかったの後悔する反面、ひとつのものでこんなに大きな作品が出来ることを知り感動しました」、「初めの振りの考案の時はあまり思慮深く考えずに速攻で作った振り付けでした。ですが、最終的にこの振りで発表をするということが分かってからは、このままではダメだと気づきその後の授業では完成度をより上げられるようにと協力しあって創作できました」といった回答があり、見通しの

ない状態だったことからくる感想もみられた。

協力することの大切さなど「取り組み」について楽しさを感じた、学んだといった感想では、「2 回目、3 回目の授業で一人一人真剣に創作活動に向き合い、協力して本番を迎えることができました」、「自分 1 人で何かを考え創作するよりも他の人たちと意見交換して試行錯誤しながら完成させるのは最初は大変だと思ったけど楽しかった」、「この授業で学んだことはたくさんありますが、特に今回の創作活動のことに关しては、一生懸命に取り組むことの大切さを学びました」といった、グループ活動の楽しさ、真剣に取り組んだ経験のよさなどが挙げられた。「難しさ・反省」についての感想もあり、「音を表現したり動きを表現したりが難しかった」、「反省では、もう少し大きく動いたり意見を言えたら良かった」、「もっと動きが大きくてもよかった。動画で見ると動きが小さかったです」など表現することや動きについての難しさや反省、取り組む姿勢についての反省などが挙げられた。

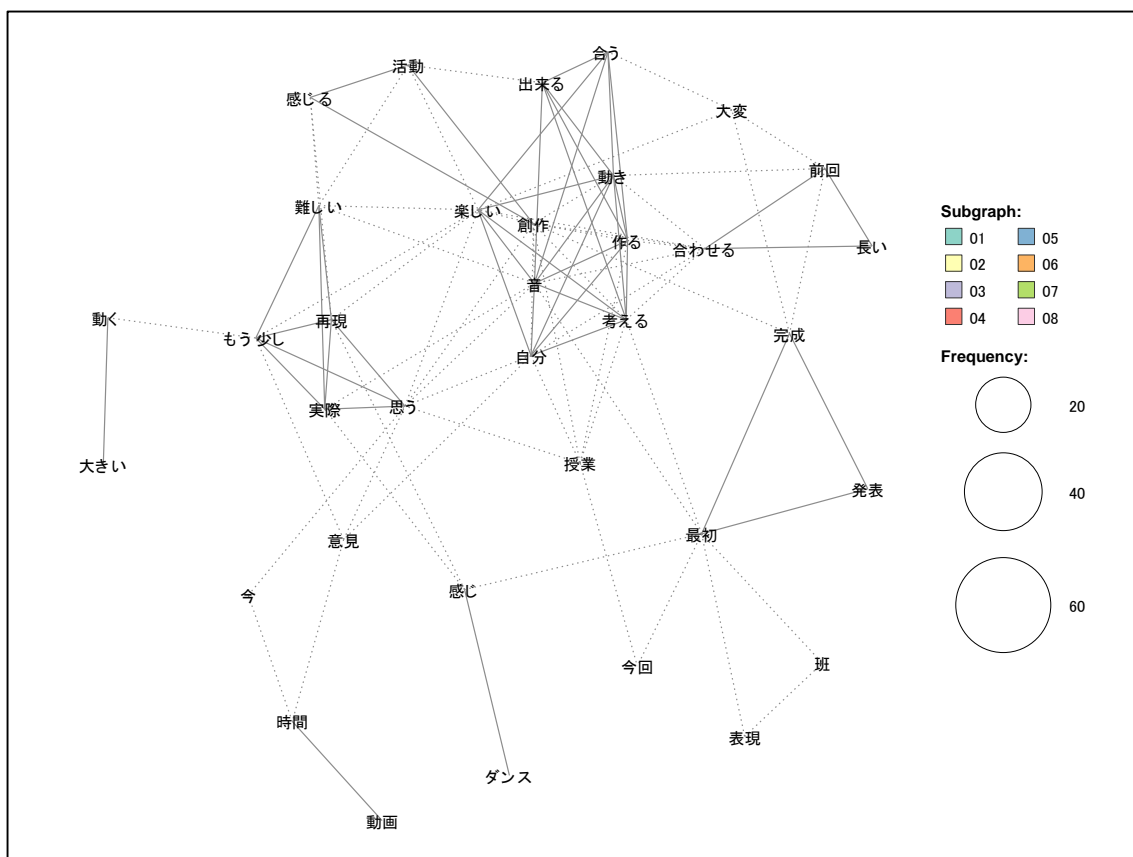


図 2 創作した感想

3-3 発表した感想

「発表」「楽しい」「動き」「音」「合わせる」という言葉の頻出回数が多く、繋がりが強いことがわかる。緊張という言葉もあるが、「緊張したが楽しかった」「いい緊張感を持って

た」といった肯定的な緊張だったことが、文章からわかる。「発表は授業の最初の頃より断然と恥ずかしさがなくなり、楽しくできました。発表しているときに誰かと目が合うとニコって笑ってくれるのが分かったのでより楽しく、よりハキハキとできていました」、「人の前に立つことに慣れることは重要。やっぱり友達の前でも緊張するし、その緊張感も大切なこと。みんなで一つのことをするのが楽しかった」、「自分達で作った音や体の動きをみんなの前で表現するのは達成感もあるし、自分が保育士になった時に活かせる経験になった」といった感想が挙げられた。また、「動きだけだったのが音を加えることによって実際に本当に音が鳴っているかのように思えました。発表をしてみても楽しかったのでまたやりたいです」といった、「動き」と「音」を組み合わせる楽しさを感じた学生が多かったことがわかった。

さらに、体を大きく動かすこと、足音をたてすぎないように気をつけることなど動き方について気を使っていたという関連の強さを見ることもできた。「初め」「恥ずかしさ」といった言葉もあり、文章から「最初は恥ずかしさがあり、あまり大きく動くことが出来ませんでした。最初よりもかなり大きく楽しく動けたような気がしました」といった、発表に対する抵抗感が減ってきているといった回答がみられた。

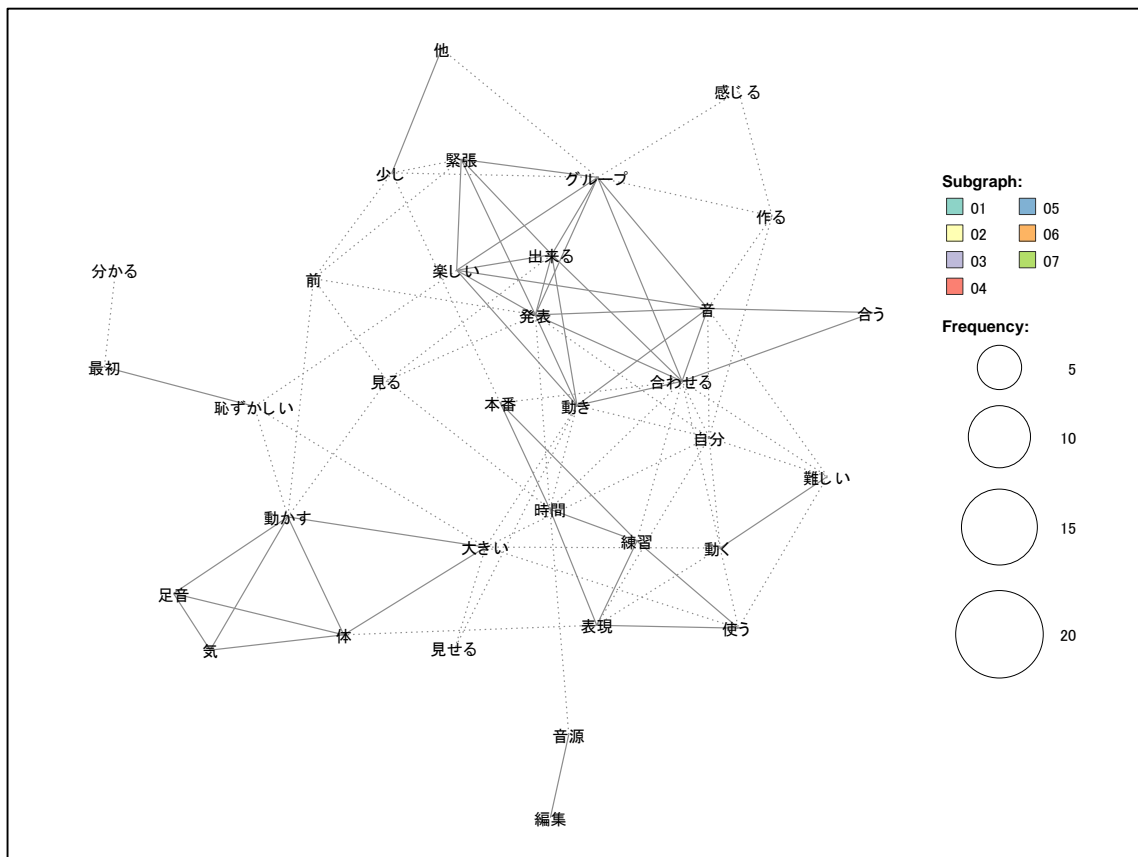


図 3 発表した感想

3-4 iPad を使った感想について

まとめの授業では、iPad を使用した感想を聞いた。iPad は、グループで 1 台を共有した。14 回音楽表現の授業、15 回動画作成時に活用した。

「iPad を使ってみた感想を聞かせて下さい」という問いには、「役立った」という回答が 100%であった。その理由としては、「グループで活動する上で最後に動画を作るのにとっても役立った」、「操作は難しかったけれど楽しくできました。いろんな効果音やアクションを取り入れて華やかにすることができて、現代だなと感じました」、「iPad は、家にないため授業で初めて使ってみましたがとても面白く、スムーズに作業をすることが出来ました。デジタル化が進んでいる今、いずれか教える側になる学生も使い方をわかっておくべきなので、授業を通して、使い方を理解するのはとても大切だと思います」、「(グループで) 1 つしかないため、操作をする人が限られてしまったのは少し悲しかったですが、自分たちで編集したり自分たちだけで再生したり、写真を送りやすかったりとても便利でした」「来週また同じことをやるから忘れないでね、となるよりも映像として残しておくことが出来たのは本当に良かったと思います。録画や録音くらいなら幼児でも扱えると気がします。録音した音を重ねたり映像を見たりすると、きっとそこから新たなアイデアや発想があるのではないかと感じました」など、自分たちが活用することに対しては、肯定的な意見だった。幼児への活用については、難しさを感じている学生と活用できるのでは?と考えている学生とに分かれた意見だった。

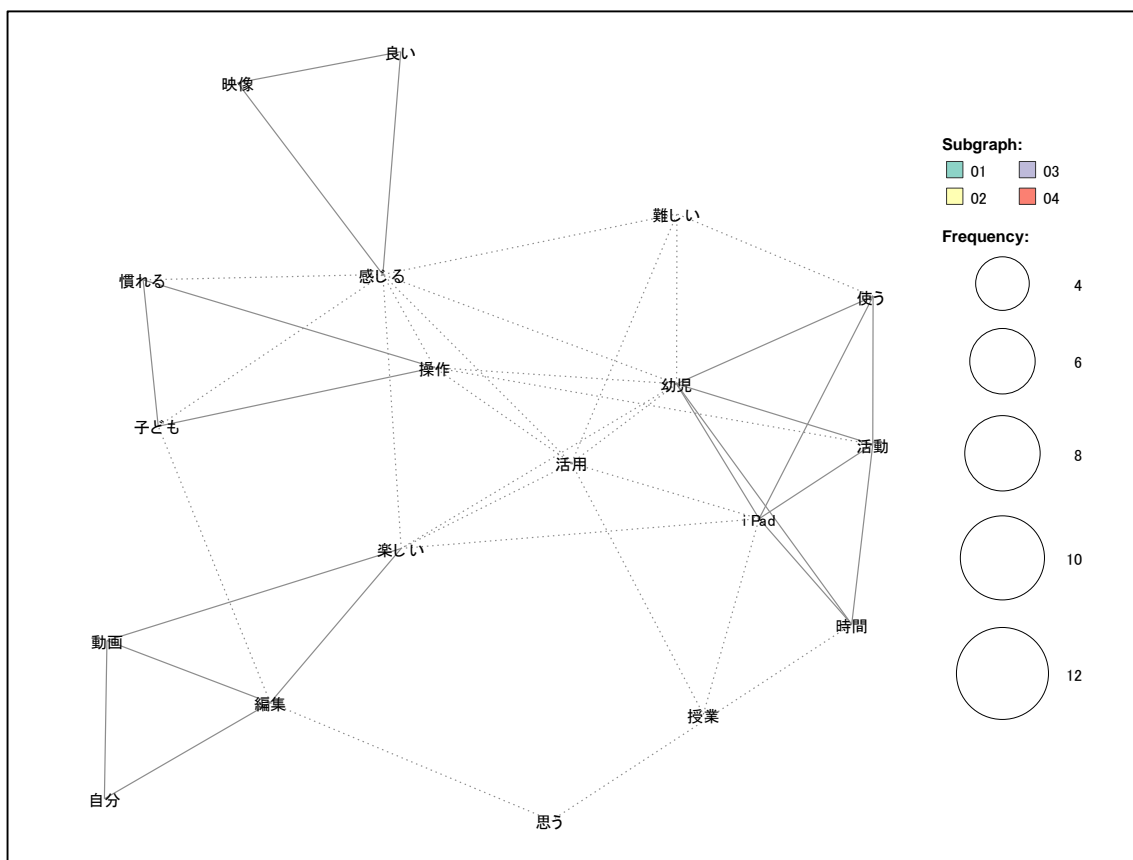


図 4 iPad を使った感想

3-5 動きのスケッチの感想

まとめの授業において、動きのスケッチが一番楽しかったと回答した学生の意見をまとめた。対象学生のうち、13 名がこの活動が楽しかったと回答している。その理由として、「特別な題材を用意したり難しく考えたりせずに、身近にあるものでここまで大きな作品が完成するんだなと体験を通して感じました」、「写真や動画に撮ったもので体を使って表現をしたことがなかったので新鮮味がありおもしろかった」、「初めから最後まで自分たちで考えたからというのが 1 番大きいと思います。題材も自分たちで見つけて動画を取ってきて、それをグループで皆のを見てどれがいいかなと考えて、そこでこれがいいあれがいいと言ひあえたのがとても新鮮でした」、「写真や動画を使って体を動かすことを初めて行いました。そのため、今まで身体表現で行ってきた授業のことを踏まえ、体を大きく動かしたりカノンを使ったりすることで動きが綺麗に見えたりすることを知れました。写真では動いていない動物も自分たちで想像して動いてみることで様々な発想をすることができたから」、「普段身近なものについて注目していなかったのを再現できるのがすごいと思ったし、友達とやることで違った視点からのアイデアがありそれを共有するのも楽しかったから」といった回答が挙げられた。身近なものが題材になるという視点、最初から自分たちで行うことが楽しかったといった感想が得られた。

4. 考察

4-1 主体的な活動

動きのスケッチの授業において、事前に動画や静止画などで対象物を撮影し、それをもとに動きを創作していく活動を行い、音楽においても音づくりを自分たちで考えて行う、そうした活動について楽しさを見出している感想が多くみられた。題材を事前に選び撮影するということから、自分で対象物を決めているので自由度が高いと受け取っている学生が多くみられ、主体的な活動に繋がっている点がこの活動の良い点の一つといえる。与えられた題材で活動するのではないということが、やる気や達成感へとつながっているとみえる。

さらにそこから動きにあった音づくりも、自分たちでどう工夫しようかと考えることで授業内においても主体的に動く姿が見られ、感想からもそのことが見受けられる。音が一般的に存在しないと認識されているものを想像する難しさなどもあったが、考えなければ普段行うことがない「音をつくる」という行為をすることで、主体的に音に関わる楽しさを感じることができた様子が見られた。これについては、学生一人ひとりが考えるだけでなく、仲間の表現を受け入れ、音をつくり上げていくという協同した活動になったからこそ、主体的に取り組む姿勢もできてきたと考える。

テーマとなる対象物から音づくり、作品としてのまとまりまで全て自分たちが見つけて創り上げたという体験を得る効果のある活動であることがわかった。

4-2 題材選びの視点への気づき

学生の感想から、身近なところに子どもたちと活動できる題材があることへ気づいていたことがわかる。普段何気なくみている景色、ものに目を向けてみることで表現の幅は広がっていく。身近にあるものだからこそ幼児の生活にも密着しているし、環境との関わりとしても繋げやすい活動だろう。子どもたちの感性を伸ばす芽は、保育者の題材選びの視点に関わってくるものである。その点について今回の動きのスケッチや音づくりは、大いに効果のある活動であることがわかった。

4-3 ICT の活用

撮影した動画を視聴することで、動きや音を観察する力につながることがわかった。

動きのスケッチでの、対象物の動画を撮影し、それをじっくり観察して動きにする、この一連の過程を行うことで対象物をじっくり観察する時間を体験することができた。身近なものをじっくり見るという行為は、日常生活の中ではあまり行われたい。観察することで動きの発見、新しい見方ができ、そこから体の使い方の工夫へと発展することができる活動であることがわかった。授業の時間の中ではなかなか時間を取ることができないため、スマートフォンなどを活用して活動に繋げることができる良い一例であるといえる。

音づくりでも、動画で記録をすることでどのように調整していくことが必要なのかを考え、工夫を重ねて完成に導くことができた。自分たちの表現をふりかえる手段であったが、結果的に音を聴いて表現するという行為に深く向き合うことにもなった。また、次に動きと音を合わせる活動があるという見通しがあったので、作成した音の動画をどのように繋げるか、効果的な音の使い方にするために加工したいなど、発展した表現を考えていくことにも繋がった。生演奏をすることの表現の良さもあるが、データ化することで、表現の自由さをより拓げることになったと考える。

iPad の活用については学生すべてが役立ったという回答であったのは意義がある。発表作品を撮影し動画にまとめるという過程を通して、動画作成の技術について知ることができる、発表作品を動画として記録に残す楽しさについて感じるができる、そして、自分の動きを客観的にみることができるといった ICT の活用のよさを見出すことができた。

保育者に求められる資質として ICT の活用は今後ますます必要になる。養成校としてそれぞれの活動や教科に特化した活用の例示を学生に教授していくことの大切さを見出すことができ、iPad やスマートフォンなど、ICT の活用ができる活動の一例であることがわかった。

4-4 活動の広がり

ひとつの題材を、身体表現でも音楽表現でも行うことができ、さらに作品や動画作品へとつなげることができるということに気づいた学生が多かった。表現は、一つの活動だけではなく、音楽、造形、身体、言葉など様々な表現方法を用いて行うことができる。一つひとつを切り離しがちであるが、総合的な活動へ広げていくことができるという視点に気づく上でも本活動は意義があるとみることができた。

4-5 学びの姿勢、対話的な活動

作品創作活動を通して、仲間と意見を交わし、協力することの大切さ、楽しさ、達成感を実感した学生が多かった。全 4 回の授業を同じグループで実践し、一つの目標に向かって取り組む活動の良さといえるだろう。

5. まとめと課題

今回の実践は、身近なものが表現活動の題材になるという視点に役立つ内容であり、学びのある活動であることがわかった。また、動画の活用、動画作成など ICT 活用もできる活動であった。

課題として、学生達に授業の見通しが持てるよう、最初の提示、説明をより丁寧に行う必要がある。さらに ICT 活用としては、創作過程において、構成用紙や意見交換に ICT を取り入れていかれるよう、より活用できる方法を取り入れていきたい。そして、グループ

で一端末というのでは、触る人と触らない人との差が生じてしまう。一人一端末の時代になっている現在、短期大学においてもそれに対応した授業の実践を行っていく必要、同時に Wi-Fi などの環境整備が急務であろう。

引用文献

- 1) 西岡育子編「平成 29 年告示『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』〈原本〉」株式会社チャイルド社. 2017,p.21

参考文献

- 2)西岡育子編「平成 29 年告示『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』〈原本〉」株式会社チャイルド社. 2017
- 3)塩崎みづほ他「保育現場における ICT 活用に関する調査」日本幼児教育学会第 29 回大会発表要旨収録,2021,10.
- 4)佐々木邦華「保育内容の指導法等における ICT 活用について(2)表現や造形にかかる授業での具体的な ICT 活用」沖縄キリスト教短期大学紀要(50)2021.1 p.33-52
- 5)岡田暁子「保育内容の指導法(表現)における ICT を活用した活動:身近な音への意識と音の可視化に着目して」保育文化研究(10)2020.3 p.29-39
- 6)松下明日香、南雲まき「保育内容領域「表現」及び「環境」の指導法における ICT 活用:幼稚園教諭養成課程における情報機器及び教材の活用の実践」金沢学院大学紀要(19)2021.3.p.128-132